

ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	インドネシア人交換留学生の日本留学観に関する一考察
Author(s)	安, 龍洙
Citation	茨城大学留学生センター紀要, 14: 1-17
Issue Date	2016-02
URL	http://hdl.handle.net/10109/12776
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

インドネシア人交換留学生の日本留学観に関する一考察

安 龍洙

要 旨

本稿ではインドネシア人4名を対象に留学観と留学前後の留学観の変化について探った。その結果、被調査者2名以上に共通した対日観・留学観として、1)物価が高い日本、2)規範意識の高い日本人、3)本音を出さない日本人、4)お酒が好きな日本人、5)消極的な日本人、6)時間を守る日本人、7)課題・宿題の大変さ、8)日本の季節に対するポジティブな印象、9)一人暮らしの楽しさ、10)アルバイトについての言及、11)交通手段としての自転車の利用などが表れた。また、日本人の曖昧さ、本音をあまり出さない日本人などは、来日後にそのイメージが強くなったのに対して、ルールを守る日本人は、来日後にそのイメージが弱くなったことがわかった。課題・宿題、ゼミなどに関してはプラスイメージからマイナスイメージに変わったのに対して、飲み会、飲み屋などはマイナスイメージからプラスイメージに変わっており、アルバイトの仕事で完璧さと正確さ、色々な国の人との国際交流、高齢者の運転、ギャル語、トイレの機能などは、来日後に生まれた対日イメージであることがわかった。

【キーワード】インドネシア人、交換留学生、日本留学観、対日観、留学観の変化

1. 研究目的

本研究は、外国人と日本人がお互いをどのように理解し評価しているのかについて、個人別態度構造分析法 (Analysis of Personal Attitude Construct : PAC 分析法) を用いて、認知的・情意的観点からその変化⁽¹⁾を探る一連の研究の一部である。本稿では、約10か月間日本の大学で学んだインドネシア人交換留学生4名を対象に、留学を終え帰国する前に日本留学に関するPAC分析を行い、それぞれの日本留学観及びその変化について探った。

2. 研究方法

調査は次の手順にしたがって行った。まず、被調査者に以下の刺激語を与え、そのイメージについて思いつくままに記入してもらった。

【刺激語】「あなたは『日本留学』についてどんなイメージを持っていますか。思い浮かんだ言葉やイメージを、思い浮かんだ順に記入してください。言葉でも短い文でも構いません。」

その後、そのイメージを重要と思われる順序に並べさせ、さらにそれぞれのイメージの組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いのかを7段階尺度で評定して

もらった。この尺度での回答を基に、ウォード法でクラスター分析し、その結果に対する対象者自身の解釈を求めた。連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は(+)、マイナスイメージの場合は(-)、どちらともいえない場合は(0)の記号を記入してもらった。また、インタビューにおける被調査者の言い間違い、言い直し、言い淀みなどの日本語の間違いや日本語の誤用に関しては正しい日本語に直して、「です・ます」体は「だ・である」体に直した。

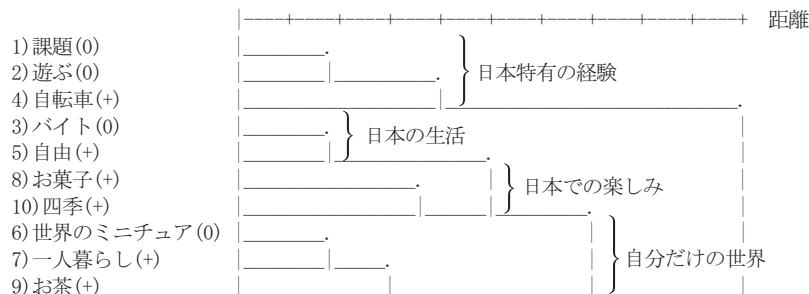
なお、被調査者4名の個人属性は次の通りである。①インドネシア人②女性③20代④交換留学生⑤日本滞在歴約10か月。調査は前述通り交換留学を終える直前に実施した。被調査者AとBは2013年2月に、被調査者CとDは2014年2月にそれぞれ実施した。

3. 結果

ここでは、クラスター分析の結果を示し、その結果に対する被調査者自身の解釈を記述する。

3.1 被調査者Aの結果

被調査者A(以下、「A」と略称する)のデンドログラムを以下の図1に示す。



1)左の数値は重要順位

2)各項目の後ろ()内の符号は単独でのイメージ

図1 Aのデンドログラム

クラスター1は『1)課題(0)』～『4)自転車(+)]の3項目でクラスター名は『日本特有の経験』とした。クラスター1については「日本でしかできないこと、日本にいる間にやりたいことだ。課題も日本でしかできないことがある。インドネシアにはない遊びもあるし、色々なところに行きたいし、日本にいる間にやらないと後悔することだ」と、留学観の変化については「私の専門はメディアだが、『〇〇に関する授業』はちょっとずれを感じた。インドネシアの大学と似ている課題もあるが、違う課題は全然できないこともあった。インドネシアでアニメやドラマで大人向けの遊びを見たことはあるが、大学生らしくない遊びを見てレベルが

低いと思った。例えば、旅行は高校生の遊びだと思ったが、日本は大学生がよく旅行する。また、飲み会も意外だった。飲み会の店は暗くてミュージックのあるバーのようなところだと思ったが日本は違う」とそれぞれ解釈した。

クラスター2は『3)バイト(0)』と『5)自由(+)]の2項目でクラスター名は『日本の生活』とした。クラスター2については「インドネシアではできないことだ。父が厳しい人で夜9時前には帰りなさいとか言われたが、日本に来て自由になって嬉しかった。また、インドネシアではバイトをしたくても親に駄目だと言われてできなかったが、今は自由と仕事を楽しんでいる」と、留学観の変化については「日本に対するイメージが変わったのは、アルバイトの仕事で完璧さと正確さが求められることだ。日本では時間を正確に守らないといけないし食器が少しずれても駄目で仕事に厳しい。でもアルバイト先の人がよくしてくれて良かった」とそれぞれ解釈した。

クラスター3は『8)お菓子(+)]と『10)四季(+)]の2項目でクラスター名は『日本での楽しみ』とした。クラスター3については「インドネシアにいた時から楽しみにしていたことだ。日本のお菓子は季節によって違うし、インドネシアにないお菓子もあるからだ」と、留学観の変化については「このイメージは変わっていないが、逆にインドネシアのお菓子が食べなくなった」とそれぞれ解釈した。

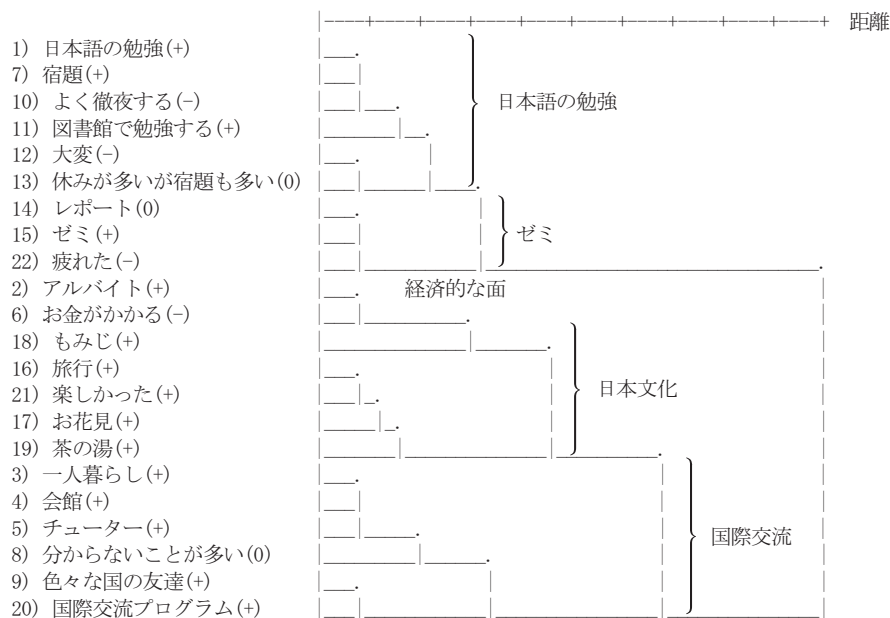
クラスター4は『6)世界のミニチュア(0)』～『9)お茶(+)]の3項目でクラスター名は『自分だけの世界』とした。クラスター4については「これは一人暮らしの感想だが、自分の家のように感じられて、自分のものが持てて、自分だけの空間で過ごせるからすごく楽しい。飲みたいときにお茶を飲んで、好きなものが選べるから楽しい」と、留学観の変化については「一人暮らしのイメージをしていたからあまり違いを感じない」とそれぞれ解釈した。

各クラスター間の比較において、クラスター1とクラスター2の比較は「クラスター1とクラスター2は似ているが、クラスター1のほうが厳しかったし、カルチャーショックを受けた。今は慣れて平気だが、インドネシアと違うからというより自分の予想が外れたからカルチャーショックを受けた。クラスター2のほうは自分で何とか対応できた」、クラスター1とクラスター3の比較は「クラスター1は私を苦しめたこと、クラスター3は私を癒してくれたことだ。クラスター3とクラスター4は割と私が好きなことで、もし、クラスター1、クラスター2のような問題があったら、クラスター3、クラスター4のようなところに逃げて助けを求めた」、クラスター1とクラスター4の比較は「宿舎のような場所は色々な人が集まっているところでの一人暮らしだったから時々困ったこともあった。また、大学の課題で困ったこともあったが大きな問題はなかった」、クラスター2とクラスター4の比較は「皆共に生きるというような感じ。皆アルバイトもしているし、お互いに相談し合えるというイメージ」、クラスター3とクラスター4の比較は「クラスター3、クラスター4のような楽しみがあるから楽しい」とそれぞれ解釈した。

全体のイメージについては「自分が好きなことと、嫌いなことがはっきりしている。例えば、遊びたいのに課題がまだ終わらないとか、問題があっても友達と話し合って笑えるとか、一人になると嫌だったとか。留学は小さな冒険だと思っていたがその通りだった。インパクトがあって期待通りのこともあったが、辛いこと、楽しいこともあった。授業の内容と流れもちょっとショックだったが留学は思った通りだった。日本の学生は積極的だと聞いていたが、先生が質問しても全然反応がない。インドネシアでは積極的に発言したり質問したりする人が頭がいいと思われているが、日本に来て発言しなくても書くことが得意な学生が勉強ができるということがわかった」と解釈した。

3.2 被調査者 B の結果

被調査者 B(以下、「B」と略称する)のデンドログラムを以下の図 2 に示す。



1)左の数値は重要順位

2)各項目の後ろ()内の符号は単独でのイメージ

図 2 B のデンドログラム

クラスター1 は『1) 日本語の勉強(+)] ~ 『13) 休みが多いが宿題も多い(0)』の 6 項目でクラスター名は『日本語の勉強』とした。クラスター1 については「授業の目的がインドネシアと違うが、休みが多いし宿題も多い」と、留学観の変化については「日本に来る前のイメージとあまり変わらない。日本人は勉強が大好きだと聞いた。夜も図書館が開いていて夜 8 時、9 時まで勉強したのも初めてだ。インドネシアでは午後 4 時には図書館が閉まる」とそれぞれ解釈した。

クラスター2は『14) レポート(0)』～『22) 疲れた(-)』の3項目でクラスター名は『ゼミ』とした。クラスター2については「先学期はゼミのクラスが2つあったが、私は日本語の勉強をしに来たのに『〇〇の勉強』をさせられた。また、毎週レポートを書かなければならなかったから疲れた」と、留学観の変化については「インドネシアにゼミはない。私は日本語について卒論を書かないといけないから、『〇〇の勉強』とか関係ない。また、日本語で『〇〇のレポート』を書かないといけなかったから大変疲れた」とそれぞれ解釈した。

クラスター3は『2) アルバイト(+)]と『6) お金がかかる(-)』の2項目でクラスター名は『経済的な面』とした。クラスター3については「日本は物価が高いと聞いたが本当だ。日本は何でも高いからアルバイトをしないと生活はできない」と、留学観の変化については「思った通り日本は物価が高い」とそれぞれ解釈した。

クラスター4は『18) もみじ(+)]～『19) 茶の湯(+)]の5項目でクラスター名は『日本文化』とした。クラスター4については「日本で体験したこと、日本の素敵などころだ。日本の綺麗などころ、日本の文化とか。お花見、もみじ、茶の湯とか。日本を旅行してやはり美しいと思った」と、留学観の変化については「少し変わった。桜はインドネシアで見た写真より美しい。桜だけではなく、日本は季節によって自然が変わって綺麗だからびっくりした」とそれぞれ解釈した。

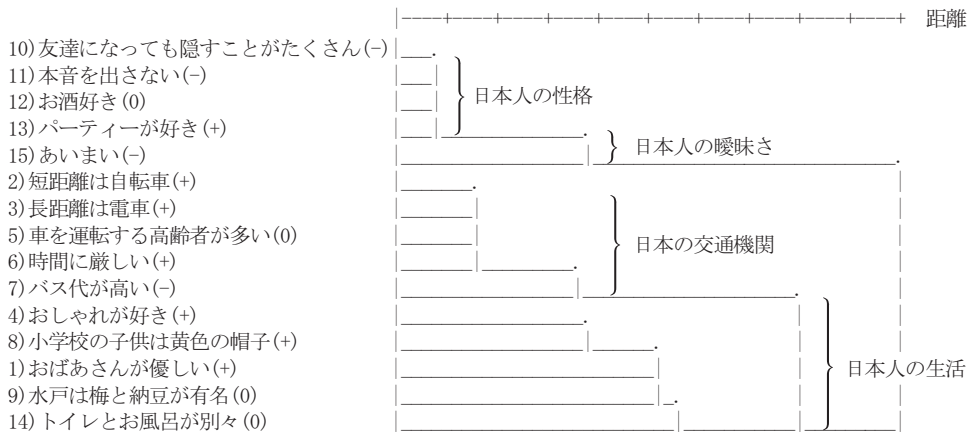
クラスター5は『3) 一人暮らし(+)]～『20) 国際交流プログラム(+)]の6項目でクラスター名は『国際交流』とした。クラスター5については「私が住んでいる国際交流会館のことだ。分からないことがある時はチューターが色々教えてくれて、色々な国の友達がいるというイメージ。△△先生は色々などころに連れて行ってくれた。1年間色々なプログラムを経験した」と、留学観の変化については「来る前にはこのようなイメージはなかった。一人暮らしも初めてだったから想像できなかった」とそれぞれ解釈した。

各クラスター間の比較において、クラスター1とクラスター2の比較は「クラスター1は日本語の勉強、クラスター2はゼミの勉強だ」、クラスター1とクラスター5の比較は「勉強をするというイメージ。会館にはチューターがいるし、皆で勉強できる場所もある。一人暮らしも勉強になる」、クラスター3とクラスター4の比較は「お金がないと旅行はできない」、クラスター3とクラスター5の比較は「一人暮らし、食べ物、友達との遊びにはお金がかかるからアルバイトが必要だ」、クラスター4とクラスター5の比較は「旅行と花見は会館の友達と一緒にやる」とそれぞれ解釈した。

全体のイメージについては「日本は宿題とレポートが多い。インドネシアで日本語と日本語教育を勉強したから教授法、読解、総合日本語は関係あるが、ゼミは私の専門とあまり関係がない。学部の授業は日本人と一緒にやるからついていくのがちょっと大変だった。インドネシアでは『〇〇の勉強』とか考えたことがなかった。やはり宿題が多かったのが印象に残る」と解釈した。

3.3 被調査者 C の結果

被調査者 C(以下、「C」と略称する)のデンドログラムを以下の図3に示す。



1)左の数値は重要順位

2)各項目の後ろ()内の符号は単独でのイメージ

図3 Cのデンドログラム

クラスター1は『10)友達になっても隠すことがたくさん(-)』～『13)パーティーが好き(+)]の4項目でクラスター名は『日本人の性格』とした。クラスター1については「日本人の性格はこうかなと思っている。本音を出さないとか、友達になっても隠すとか。12)お酒好き(0)、13)パーティーが好き(+))は本音が出せる機会だ。どこにも本音を出さない人はいるけど、特に日本人はそういう人が多いと思う」と、留学観の変化については「日本人は人との付き合いとかで遠慮すると聞いていたが、やはりそうだと思った。日本人はお酒が好きだと聞いていたが、思った以上に酒好きだ」とそれぞれ解釈した。

クラスター2は『あいまい(-)]の1項目でクラスター名は『日本人の曖昧さ』とした。クラスター2については「友達とどこかに行くことを決める時、『どこでもいいよ』と言ったり、意見交換をしている時にどっちかにしたいのに、日本人は真ん中を選ぶ」と、留学観の変化については「私のようなスンダ族も曖昧なところはあるが、日本人はもっと強い」とそれぞれ解釈した。

クラスター3は『2)短距離は自転車(+)]～『7)バス代が高い(-)]の5項目でクラスター名は『日本の交通機関』とした。クラスター3については「インドネシアでは電車と自転車にあまり乗ったことがない。5)車を運転する高齢者が多い(0)のように高齢者が運転するのを見てびっくりした。インドネシアでは危ないから高齢者はあまり運転しない。バス代が高いから近い距離は自転車を利用する。日本は電車とか時間をちゃんと守る」と、留学観の変化

については「高齢者の運転は新しい発見でびっくりした」とそれぞれ解釈した。

クラスター4は『4)おしゃれが好き(+)]～『14)トイレとお風呂が別々(0)]の5項目でクラスター名は『日本人の生活』とした。クラスター4については「インドネシアと日本の文化の違いだ。日本人は季節に合わせてお洒落をするがインドネシア人はそれができないし、特に私はお洒落をしないほうだ。日本の小学生の黄色い帽子とかには文化の違いを感じる。黄色は目立つから高齢者にいい。携帯ばかりいじっている若い人より何度も声をかけてくれるおばあさんのほうが優しいと感じた。水戸にいるから納豆と梅はなるほどと感じている。風呂とトイレが別々という話を聞いていたが、ホームステイをして本当だと感じた」と、留学観の変化については「日本人のお洒落好きは前から知っていた。8)小学校の子供は黄色の帽子(+), 14)トイレとお風呂が別々(0)は日本に来て知ったことだ。おばあさんが優しいのはどの国も同じだろうが、特に日本のおばあさんは優しいと思った」とそれぞれ解釈した。

各クラスター間の比較において、クラスター1とクラスター2の比較は「日本人の曖昧さと本音を出さないことは関連があると思う」、クラスター1とクラスター4の比較は「パーティー好きとお洒落好きは関連がある。お洒落をしてパーティーに行くような感じだ」、クラスター2とクラスター3の比較は「時間に厳しいと曖昧さは反対のイメージ」、クラスター3とクラスター4の比較は「高齢者と小学生のために黄色のような目立つ色を使う」とそれぞれ解釈した。

全体のイメージについては「寒い国というイメージが強い。春に日本に来たが寒いと思った。日本人は何でも順番をつける。流行語とか、可愛い人とか、芸能人の人気とか、とにかく順番をつける。意外と日本人学生はパソコンに詳しくないと思った。キーボード操作もあまりできない学生がいる。オタクのイメージがあったから日本人は皆パソコンに詳しいと思っていたがそうじゃない人もいる。日本人は時間に厳しい。日本はイベント、祭りが多。祭りは夏に多いと聞いたが、他の季節にも多いことを日本に来て知った」と解釈した。

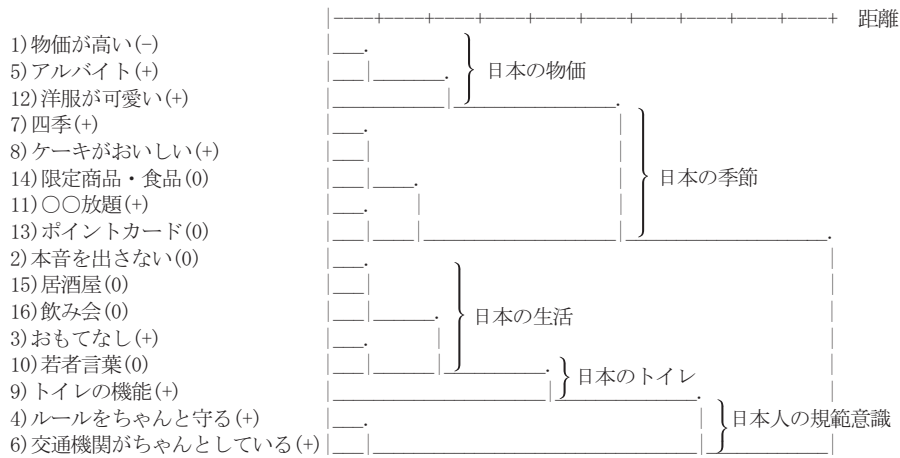
4.1 被調査者Dの結果

被調査者D(以下、「D」と略称する)のデンドログラムを以下の図4に示す。

クラスター1は『1)物価が高い(-)]～『12)洋服が可愛い(+)]の3項目でクラスター名は『日本の物価』とした。クラスター1については「物価と関係のあるグループだ。日本はインドネシアの5倍くらい物価が高い。だから仕送りはしてもらえないから自分でアルバイトをして頑張っている。アルバイトの収入で色々なところにも行ったし生活も大丈夫だ。インドネシアに比べて食べ物の値段が特に高い。大学の生協で一番安い蕎麦も200円くらいでそのお金があったらインドネシアでもっといいものが食べられる。また、生活に必要な洗剤も高い」と、留学観の変化については「日本は物価が高いと聞いていた」とそれぞれ解釈した。

クラスター2は『7)四季(+)]～『13)ポイントカード(0)]の5項目でクラスター名は『日

本の季節』とした。クラスター2については「インドネシアは雨季と乾季しかないから季



1)左の数値は重要順位

2)各項目の後ろ()内の符号は単独でのイメージ

図4 Dのデンドログラム

節の変化をあまり感じられない。日本は四季があるから春は桜、夏は海のように、季節を楽しめる。また、四季によって使う物、食べる物が変わるから好きだ。ケーキもフルーツとかイチゴとか季節によって味が違うし、ポイントカードも使える。日本人は食べ放題、歌い放題、飲み放題のように『○○放題』が好きだ」と、留学観の変化については「食べ放題とポイントカードは日本に来る前は知らなかった。ポイントカードは店で「作りませんか」とよく聞かれるから作ったが、インドネシアにはないものだ。限定商品、限定食品も日本に来て知った。例えば、抹茶味のポッキーとかは期間限定のものだ。期間限定と書いてあると心が引かれるから売っているのだと思う。季節限定のケーキも日本に来て知った」とそれぞれ解釈した。

クラスター3は『2)本音を出さない(0)』～『10)若者言葉(0)』の5項目でクラスター名は『日本の生活』とした。クラスター3については「日本人は本音をあまり出さないが、それは相手の気持ちを考えているからだと思う。それはおもてなしと関係がある。例えば、友達と何を食べるか決める時はなかなか決まらないし、時間がかかる。だから私が勝手に決めちゃったりするがちょっと気になっている。日本人は『大丈夫、大丈夫』と言うが、私は『本当にいいのかな』とちょっと心配だ。日本人は酔うと本音が出る。居酒屋でアルバイトをやっているが同じことを感じる。インドネシアでは考えられないことだ。日本では新しく作られた若者言葉が多すぎる。インドネシアにも若者言葉は誕生するが日本は多すぎるし、ギャル語とか印象に残っている」と、留学観の変化については「日本人が本音を出さないというのは前から聞いていたが、こっちに来て本音と建前の違いが分かるようになった。日本に来る前にドラマやアニメで若者言葉があることは勉強したがギャル語は知らなかった。日本人と交流しなが

ら知った若者言葉も多い」とそれぞれ解釈した。

クラスター4は『9)トイレの機能(+)]の1項目でクラスター名は『日本のトイレ』とした。クラスター4については「日本のトイレは『オトヒメ』のように色々な機能があるから素晴らしい」と、留学観の変化については「日本に来る前は知らなかった」とそれぞれ解釈した。

クラスター5は『4)ルールをちゃんと守る(+)]と『6)交通機関がちゃんとしている(+)]の2項目でクラスター名は『日本人の規範意識』とした。クラスター5については「インドネシアは乗り物の時刻表がないから、次のバスとかがいつ来るか分からない。急いでいる時は苛々する。日本は時間通りにバスが来るから時間の約束をしても大丈夫だが、インドネシアではそれができない。日本ではゴミはゴミ置き場に分別して出す。また、日本人はレストランでドリンク付きのメニューを頼んだらそれを頼んだ人しか飲まないが、インドネシアでは一人が頼んで皆で飲んじゃうと思う。日本人は人に見られなくてもやってはいけないことはやらない。インドネシアのレストランはドリンクバーがないから、一品ずつ頼む」と、留学観の変化については「日本人はルールをきちんと守るという話を聞いていたがその通りだった。でも、ルールや信号を守らない人もいる。また、道路の真ん中を走る人、駐車してはいけないところに駐車する人もいる」とそれぞれ解釈した。

各クラスター間の比較において、クラスター1とクラスター2の比較は「日本の食べ物は旬がある。旬の物は安いじゃないと高い。洋服の値段も四季と関係がある」、クラスター1とクラスター3の比較は「日本は客に対するサービスがとてもいいと思う。インドネシアには接客態度が悪い店が多いが、日本はそのような店は少ない」、クラスター1とクラスター4の比較は「日本のトイレは色々な機能があるから値段が高そう」、クラスター1とクラスター5の比較は「交通費が高い」、クラスター2とクラスター3の比較は「四季によっておもてなしの仕方が変わる。例えば、冬には店にブランケットが置いてあったりする」、クラスター2と5の比較は「食べ放題の制限時間を日本人はちゃんと守る」、クラスター3とクラスター4の比較は「おもてなしと『オトヒメ』のようなトイレの機能は思いやりという意味で関連がある」、クラスター3とクラスター5の比較は「日本人の飲み会にも目に見えないルールがある」とそれぞれ解釈した。

全体のイメージについては「日本は物価が高くても便利だが、ATMは不便だ。インドネシアではATMは24時間利用できて同じ銀行は手数料もかからない。日本人の建前ははっきりしているが、それは私のようなスダ族の民族性と似ている。インドネシアの他の民族にも建前は一応あるが、そんなにはっきりはしていない。飲み会はインドネシアはない。自分が居酒屋でアルバイトをするとは思わなかったし、居酒屋の印象も悪かった。しかし、日本の居酒屋は子供も連れて来るし、ファミレスとあまり変わらない。やはり文化が違う。インドネシアにもバーとかはあるがあまり良くない印象があった。しかし、日本の居酒屋は普通のところでその印

象が変わった。インドネシアの大学生はバイト代が安いからあまりアルバイトをしない。自分で働いて生活してみたのはいい経験になった。働くことがこういうことかと実感した」と解釈した。

4. まとめと考察

ここでは、まず被調査者4名のうち2名以上に共通した対日観を述べてから帰国前後の対日観の変化について探る。

4.1 先行研究と共通の対日観について

(1) 物価が高い日本

Bのクラスター3の「日本は物価が高いと聞いたが本当だ。日本は何でも高いからアルバイトをしないと生活はできない」、「思った通り日本は物価が高い」、Cの7)バス代が高い(-)、クラスター3の「…バス代が高いから近い距離は自転車を利用する…」、Dの1)物価が高い(-)、クラスター1の「…日本はインドネシアの5倍くらい物価が高い…インドネシアに比べて食べ物の値段が特に高い…生活に必要な洗剤も高い」などから3名ともに日本は物価が高いと考えていることがわかる。物価が高い日本については、韓国人の対日観(安 2009, 2010a, 2014)、中国人の対日観(安 2010b)、中国少数民族の対日観(安 2012)、ブルガリア人の対日観(安他 2014)にも表れている。

(2) 規範意識の高い日本人像

Aのクラスター2の「日本に対するイメージが変わったのは、アルバイトの仕事で完璧さと正確さが求められることだ。日本では時間を正確に守らないといけないし食器が少しずれても駄目で仕事に厳しい…」、Cの6)時間に厳しい(+)、クラスター3の「…日本は電車とか時間をちゃんと守る」、Dの4)ルールをちゃんと守る(+)、6)交通機関がちゃんとしている(+)、クラスター5の「…日本は時間通りにバスが来るから時間の約束をしても大丈夫だ…日本ではゴミはゴミ置き場に分別して出す。また、日本人はレストランでドリンク付きのメニューを頼んだらそれを頼んだ人しか飲まない…」 「日本人はルールをきちんと守るという話を聞いていたがその通りだった…」などからA、C、Dともに日本人は規範意識が高いと考えていることがわかる。規範意識の高い日本人像については、韓国人の対日観(安 2008a, 2009, 2010a, 2015b, 安他 2013)、中国人の対日観(安 2010b, 2013)、ベトナム人の対日観(安 2011)、中国少数民族の対日観(安 2012)にも同様の結果が得られた。

(3) 本音を出さない日本人像

Cの10)友達になっても隠すことがたくさん(-)、11)本音を出さない(-)、クラスター1の「…本音を出さないとか、友達になっても隠すとか。12)お酒好き(0)、13)パーティーが好き(+)は本音が出せる機会だ。どこにも本音を出さない人はいるけど、特に日本人はそういう人が多いと思う」、Dの2)本音を出さない(0)、クラスター3の「日本人は本音をあまり出さないが、

それは相手の気持ちを考えているからだと思う…日本人は酔うと本音が出る…」、「日本人が本音を出さないというのは前から聞いていたが、こっちに来て本音と建前の違いが分かるようになった…」などから日本人は本音を出さないと考えていることがわかる。日本人の本音については先行研究の韓国人の対日観(安 2008a, 2008b, 2010a, 印刷中)ベトナム人の対日観(安 2011)、インドネシア人の対日観(藤原 2012)、中国人の対日観(安 2013)、ベトナム人の対日観(松田 2013)においても同様の結果が得られている。

(4) お酒が好きな日本人

C の 12) お酒好き(0)、クラスター1の「…日本人はお酒が好きだと聞いていたが、思った以上に酒好きだ」、D の 16) 飲み会(0)などからC、Dともに日本人はお酒が好きだと考えていることがわかる。お酒が好きな日本人については、中国人の対日観(安 2010b, 2013)、ベトナム人の対日観(安 2011)、台湾人の対日観(藤原 2009)にも同様の結果が表れている。

(5) 消極的な日本人

A の全体のイメージの「…日本の学生は積極的だと聞いていたが、先生が質問しても全然反応がない…」、C のクラスター2「友達とどこかに行くことを決める時、『どこでもいいよ』と言ったり、意見交換をしている時にどっちかにしたいのに、日本人は真ん中を選ぶ」、D のクラスター3「…友達と何を食べるか決める時はなかなか決まらないし、時間がかかる。だから私が勝手に決めちゃったりするがちょっと気になっている…」などから日本人は消極的であると考えていることがわかる。消極的な日本人については、韓国人の対日観(安 2008a, 2010a, 2015 b, 印刷中)、ベトナム人の対日観(安 2011)、ネパール人の対日観(藤原他 2013)にも同様の結果が得られている。

(6) 日本の自然・季節に対するポジティブな印象

A の 10) 四季(+)、クラスター3の「インドネシアにいた時から楽しみにしていたことだ。日本のお菓子は季節によって違うし…」、B のクラスター4の「…お花見、もみじ、茶の湯とか。日本を旅行してやはり綺麗だなと思った」、「…桜はインドネシアで見た写真より綺麗だ。桜だけではなく、日本は季節によって自然が変わって綺麗だからびっくりした」、C のクラスター4の「…日本人は季節に合わせてお洒落をするがインドネシア人はそれができないし…」、D の 7) 四季(+)、クラスター2の「…日本は四季があるから春は桜、夏は海のように、季節を楽しめる。また、四季によって使う物、食べる物が変わるから好きだ。ケーキもフルーツとかイチゴとか季節によって味が違うし…」、「…季節限定のケーキも日本に来て知った」などから4名全員が日本の季節に対してポジティブな印象を有していることがわかる。先行研究の韓国人の対日観(安 2015a)、ウクライナ人の対日観(松田 2014)、ベトナム人の対日観(松田 2013)などにおいても日本の自然について述べており、『桜』については韓国人の対日観(安 2015a)においても同じくプラスイメージを有していることがわかった。

(7) 交通手段としての自転車の利用

A の 4) 自転車(+)、C の 2) 短距離は自転車(+)、クラスター3 の「インドネシアでは電車と自転車にあまり乗ったことがない…バス代が高いから近い距離は自転車を利用する…」など、A、C ともに交通手段としての自転車について言及している。日本人の交通手段として自転車の利用については、中国少数民族の対日観(安 2012)、ベトナム人の対日観(松田 2013)、韓国人の対日観(安 2013 他, 2014)にも表れている。

(8) アルバイトについての言及

A のクラスター2 の「…インドネシアではバイトをしたくても親に駄目だと言われてできなかったが、今は自由と仕事を楽しんでいる」、「…アルバイトの仕事で完璧さと正確さが求められることだ。日本では時間を正確に守らないといけないし食器が少しずれても駄目で仕事に厳しい。でもアルバイト先の人がよくしてくれて良かった」、B の 2) アルバイト(+)、クラスター3 の「…日本は何でも高いからアルバイトをしないと生活はできない」、D のクラスター1 の「…仕送りはしてもらえないから自分でアルバイトをして頑張っている。アルバイトの収入で色々なところにも行ったし生活も大丈夫だ…」など、A、B、D ともにアルバイトについて言及している。アルバイトについては、韓国人の対日観(安 2009, 2014)、中国人の対日観(2010b, 2013)、中国人少数民族の対日観(安 2012)、ベトナム人の対日観(松田 2013)、ブルガリア人の対日観(安他 2014)にも表れている。

(9) 一人暮らしの楽しさ

A のクラスター4 の「これは一人暮らしの感想だが、自分の家のように感じられて、自分のものが持てて、自分だけの空間で過ごせるからすごく楽しい。飲みたいときにお茶を飲んで、好きなものが選べるから楽しい」、B の 3) 一人暮らし(+)、クラスター5 の「…一人暮らしも初めてだったから想像できなかった」、クラスター1 と 5 の「…一人暮らしも勉強になる」などから A、B ともに一人暮らしを楽しんでいる様子が窺える。一人暮らしの楽しさについては PAC 分析によるこれまでの留学観調査においては表れていない。

(10) 課題・宿題が大変である

A のクラスター1 の「…インドネシアの大学と似ている課題もあるが、違う課題は全然できないこともあった…」、全体のイメージの「…遊びたいのに課題がまだ終わらないとか…」、B のクラスター1 の「…休みが多いし宿題も多い」、クラスター2 の「…私は日本語の勉強をしに来たのに『〇〇の勉強』をさせられた。また、毎週レポートを書かなければならなかったから疲れた」、「…日本語で『〇〇のレポート』を書かないといけなかったから大変疲れた」、全体のイメージの「日本は宿題とレポートが多い…学部の授業は日本人と一緒にやるからついていくのがちょっと大変だった…やはり宿題が多かったのが印象に残る」などから A、B ともに宿題や課題が大変であると考えていることがわかる。課題・宿題の大変さについては PAC 分析によるこれまでの留学観調査においては表れていない。

4.2 留学観の変化について

ここでは被調査者の留学観の変化について表1に示す。

4.2.1 留学観に変化がみられない場合

ここでは来日前後で留学観の変化がみられなかったケース(表1の「変化なし」)について述べる。Aのクラスター4の一人暮らし、クラスター3の日本のお菓子、Bのクラスター1の勉強が好きな日本人、クラスター3の物価の高い日本、Cのクラスター1の遠慮する日本人、Dのクラスター1の物価の高い日本などは来日前後でイメージの変化がない場合である。

表1 4名の対日観の変化

被調査者 A			
クラスター名	クラスターの解釈	振り返りによる留学前後の変化	
クラスター1： 日本特有の経験	①課題も日本でしかできないことがある ②インドネシアにはない遊びもある ③色々なところに行きたい	①インドネシアの大学と似ている課題もあるが、違う課題は全然できないこともあった ②大学生らしくない遊びを見てレベルが低いと思った ③旅行は高校生の遊びだと思ったが、日本は大学生がよく旅行する ④飲み会も意外だった。飲み会の店は暗くてミュージックのあるバーのようなどころだと思ったが日本は違う	①マイナスへ転化 ②マイナスへ転化 ③マイナスへ転化 ④プラス転化
クラスター2： 日本の生活	インドネシアではバイトをしたくても親に駄目だと言われてできなかった	アルバイトの仕事で完璧さと正確さが求められる	イメージの誕生
クラスター3： 日本での楽しみ	日本のお菓子は季節によって違うし、インドネシアにないお菓子もある	このイメージは変わっていないが、逆にインドネシアのお菓子が食べなくなった	変化なし
クラスター4： 自分だけの世界	自分の家のように感じられて、自分のものが持てて、自分だけの空間で過ごせるからすごく楽しい	一人暮らしのイメージをしていたからあまり違いを感じない	変化なし
被調査者 B			
クラスター名	クラスターの解釈	振り返りによる留学前後の変化	
クラスター1： 日本語の勉強		日本に来る前のイメージとあまり変わらない。日本人は勉強が大好きだと聞いた	変化なし
クラスター2： ゼミ	先学期はゼミのクラスが2つあったが…毎週レポートを書かなければならなかったから疲れた	私は日本語について卒論を書かないといけな…大変疲れた	マイナスへ転化
クラスター3： 経済的な面	日本は物価が高いと聞いたが本当だ	思った通り日本は物価が高い	変化なし
クラスター4： 日本文化	日本を旅行してやはり綺麗だなと思った	少し変わった。桜はインドネシアで見た写真より美しい	イメージ強化
クラスター5： 国際交流	私が住んでいる国際交流会館…色々な国の友達がいるというイメージ	来る前にはこのようなイメージはなかった。	イメージの誕生
被調査者 C			
クラスター名	クラスターの解釈	振り返りによる留学前後の変化	
クラスター1： 日本人の性格	①日本人の性格はこうかなと思っている。本音を出さないとか、友達になっても隠すとか	①日本人は人との付き合いとかで遠慮すると聞いていたが、やはりそうだと思った	①変化なし ②イメージ強化

	⑫12)お酒好き(0)、13)パーティーが好き(+)は本音が出せる機会だ	⑫日本人はお酒が好きだと聞いていたが、思った以上に酒好きだ	
クラスター2: 日本人の曖昧さ	友達とどこかに行くことを決める時…意見交換をしている時…日本人は真ん中を選ぶ	私のようなスندا族も曖昧なところはあるが、日本人はもっと強い	イメージの強化
クラスター3: 日本の交通機関	インドネシアでは電車と自転車にあまり乗ったことがない	高齢者の運転は新しい発見でびっくりした	イメージの誕生
クラスター4: 日本人の生活		8)小学校の子供は黄色の帽子(+)、14)トイレとお風呂が別々(0)は日本に来て知ったことだ	①イメージ誕生
被調査者D			
クラスター名	クラスターの解釈	振り返りによる留学前後の変化	
クラスター1: 日本の物価	日本はインドネシアの5倍くらい物価が高い	日本は物価が高いと聞いていた	変化なし
クラスター2: 日本の季節	日本は四季があるから春は桜、夏は海のように、季節を楽しめる	食べ放題とポイントカードは日本に来る前は知らなかった…季節限定のケーキも日本に来て知った	イメージの誕生
クラスター3: 日本の生活	①日本人は本音をあまり出さないが、それは相手の気持ちを考えているからだと思う ②日本では新しく作られた若者言葉が多すぎる	①日本人が本音を出さないというのは前から聞いていたが、こっちに来て本音と建前の違いが分かるようになった ②日本に来る前にドラマやアニメで若者言葉があることは勉強したがギャル語は知らなかった	①イメージの強化 ②イメージの誕生
クラスター4: 日本のトイレ	日本のトイレは『オトヒメ』のように色々な機能があるから素晴らしい	日本に来る前は知らなかった	イメージの誕生
クラスター5: 日本人の規範意識	…日本は時間通りにバスが来るから時間の約束をしても大丈夫だが、インドネシアではそれができない。日本ではゴミはゴミ置き場に分別して出す。また、日本人はレストランでドリンク付きのメニューを頼んだらそれを頼んだ人しか飲まないが…	日本人はルールをきちんと守るという話を聞いていたがその通りだった。でも、ルールや信号を守らない人もいる…	イメージの弱体化

4.2.2 日本留学観の変化がみられた場合

(1) 特定のイメージが強くなったケース(表1の「イメージ強化」)

Bのクラスター4の桜の美しさ、Cのクラスター1のお酒が好きな日本人、クラスター2の日本人の曖昧さ、Dのクラスター3の本音をあまり出さない日本人などは来日後にイメージが強くなったケースである。

(2) 特定のイメージが弱くなったケース(表1の「イメージの弱体化」)

Dのクラスター5のルールを守る日本人は、留学後にそのイメージが弱くなったケースである。

(3) 新しいイメージが生まれたケース(表1の「イメージの誕生」)

Aのクラスター2のアルバイトの仕事で完璧さと正確さ、Bのクラスター5の色々な国の人との国際交流、Cのクラスター3の高齢者の運転、クラスター4のお洒落が好きな日本人、Dのクラスター2の食べ放題とポイントカード、クラスター3のギャル語、クラスター4のトイレの機

能などは、来日後に生まれた対日イメージである。

(4) プラスイメージがマイナスイメージに変わったケース(以下、「マイナスへ転化」)

A のクラスター1 の課題・宿題、大学生の遊び、大学生の旅行、B のクラスター2 のゼミなどの学部の授業などはプラスイメージがマイナスイメージに変わったケースである。

(5) マイナスイメージがプラスイメージに変わったケース(以下、「プラスへ転化」)

A のクラスター1 の飲み会、飲み屋はマイナスイメージがプラスイメージに変わったケースである。

5. 終わりに

以上、本稿では交換留学生として来日し約 10 か月間大学で学んだインドネシア人 4 名を対象に留学観と留学前後の留学観の変化について探った。その結果、被調査者の共通した対日観・留学観として、1)物価が高い日本、2)規範意識の高い日本人、3)本音を出さない日本人像、4)お酒が好きな日本人、5)消極的な日本人、6)時間を守る日本人、7)課題・宿題が大変である、8)日本の季節に対するポジティブな印象、9)一人暮らしの楽しさ、10)アルバイトについての言及、11)交通手段としての自転車の利用などが表れた。

振り返りによる留学前後の変化については、一人暮らし、日本のお菓子、勉強が好きな日本人、遠慮する日本人、物価の高い日本などは留学後にも変化が表れなかった。桜の美しさ、お酒が好きな日本人、日本人の曖昧さ、本音をあまり出さない日本人は来日後にそのイメージが強くなったのに対して、ルールを守る日本人は来日後にそのイメージが弱くなったことがわかった。課題・宿題、大学生の遊び、大学生の旅行、ゼミなどの学部の授業はプラスイメージがマイナスイメージに変わったのに対して、飲み会、飲み屋はマイナスイメージがプラスイメージに変わったことがわかった。さらに、アルバイトの仕事で完璧さと正確さ、色々な国の人との国際交流、高齢者の運転、お洒落が好きな日本人、食べ放題とポイントカード、ギャル語、トイレの機能などは、来日後に生まれた対日イメージであることがわかった。

付記：本研究は平成 24 年～平成 27 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)研究代表者：安龍洙 課題番号 24520566)による研究成果の一部である。

注

(1)本研究における「変化」とは、ある対象に対する被調査者自身によるイメージや態度に

ついて振り返り、それを評価したものを指す。

参考文献

- 安龍洙(印刷中)「日本で就職した元韓国人留学生の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要 14』
- 安龍洙(2015a)「在日永住者の対日観に関する一考察-韓国人ニューカマーの場合-」『茨城大学留学生センター紀要 13』 pp. 61-73
- 安龍洙(2015b)「日本留学経験者の韓国帰国後の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要 13』 pp. 1-14
- 安龍洙(2014)「韓国人短期留学生の日本留学観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要 12』 pp. 75-88
- 安龍洙・アントン・アンドレイフ (2014)「ブルガリア人の日本留学前後の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要 12』 pp. 1-14
- 安龍洙・宋有宰(2013)「外国人の対日観の変化に関する研究-日本滞在歴の長い韓国人留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要 11』 pp. 81-96
- 安龍洙(2013)「外国人の対日観の変化に関する研究-中国人留学生の来日前後の対日観を比較して-」『茨城大学留学生センター紀要 11』 pp. 1-16
- 安龍洙(2012)「外国人の対日観に関する研究-中国の少数民族出身者の場合-」『茨城大学留学生センター紀要 10』 pp. 1-14
- 安龍洙(2011)「外国人の対日観に関する研究-ベトナム人留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要 9』 pp. 1-18
- 安龍洙(2010a)「外国人の対日観に関する研究-日本滞在歴の長い韓国人の場合-」『ユーラシア研究 7(4)』 pp. 373-392
- 安龍洙(2010b)「外国人の対日観に関する研究-中国人非正規留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要 8』 pp. 1-17
- 安龍洙(2009)「外国人の対日観に関する事例研究-韓国人短期留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要 7』 pp. 1-13
- 安龍洙(2008a)「韓国人留学生の対日観の変容に関する一考察-個人別態度構造分析法(PAC 分析法)を用いて-」『留学生交流・指導研究 10』 pp. 31-48
- 安龍洙(2008b)「韓国人の対日観に関する一考察-個人別態度構造分析法(PAC)を用いて-」、『ユーラシア研究 5(3)』 pp. 107-125
- 藤原智栄美(2012)「インドネシア人日本語話者の対日観に関する一考察：日本滞在時の対日イメージとその変容」Jurnal Nihongo, Vol14/ No2, 15-29, インドネシア日本語教育学会
- 藤原智栄美(2009)「台湾人日本語話者の対日観に関する一考察-個人別態度構造分析法(PAC

- 分析)による事例研究-」『日本学と台湾学 8』 pp. 1-23(台湾) 静宜大学
- 藤原智栄美・杉浦秀行(2013) 「工学系大学院留学生は留学生生活をいかに捉えているか」 『留学生
交流・指導研究 16』 pp. 7-20
- 松田勇一(2013) 「外国人の対日観に関する研究-ベトナム人の場合-」 『茨城大学留学生セン
ター紀要 11』 pp. 97-111
- 松田勇一(2014) 「外国人の対日観に関する研究-ウクライナ人日本留学経験者の場合-」 『茨城
大学留学生センター紀要 12』 pp. 55-73